

「楽しい&エコ」な暮らし、いっしょにはじめましょ♪



季刊

エコびと

第9号 2013.1月

たつみ なぎさ
特集：辰巳 渚さん講演会
(家事塾代表、消費行動研究家)



会員突撃インタビュー（谷口陽子さん）
とよたのまちネタ紹介（ジビエ・グルメ・グランプリ 2012）

このミニ冊子は持続可能で豊かな地域社会（エコライフとよた）の実現を目指す
NPO 法人とよたエコ人プロジェクトひとが発行しています

たつみ なぎさ
特集：辰巳 渚さん講演会

12月に開催した「エコットフォーラム」。今回は、家事塾代表の辰巳渚さんに「家事が変われば生き方が変わる」と題して、講演をお願いしました。辰巳さんの知名度の高さもあって、eco-Tへの初来館者も多く、当日は女性を中心に約130人が参加しました。



辰巳 渚さん

講演は、ご自身の生き様を語りつつ、家事の意味や意義、モノと価値観との関係、子育てやお手伝いの話など、終始和やかな雰囲気で見ました。印象に残ったお話を紹介します。（小泉達也&松浦貴子）

- ◆お掃除ロボット“ルンバ”を買った。お気に入り。ルンバ君が床掃除を頑張っている間に、自分は洗いものをしたりする。仲間がいるみたいで楽しい♪ オススメです。
- ◆4～5年前、「家事の大切さを伝えることを仕事にしよう！」と思い立った。当初、周りの反応はピンとこない感じだったが、東日本大震災の前ごろから、「いいですね！」という共感が増えてきた。
- ◆私自身も「家事って面倒くさい」と感じることもあるし、得意とも言えない。親元にいたときは家事をしなかったから、一人暮らしを始めたとき、あまりにも何もできない自分に驚いた。
- ◆人の一生には12のライフステージ（成長段階）がある。就学、就職、結婚、定年など。その時その時の自分がどんなだったか、思い出してみよう。そして、これから先、いつ頃、どんな節目がやってくるか、子どもの成長など、家族のことも含めて想像してみよう。
- ◆人生には、節目や危機がいろいろある。私にとっては、子どもを産んだときも、一つの危機だった。どう育てたらいいかわからない。泣きやんでくれない。こっちが泣きたい。「やめたら楽になる」なんて考えも、頭をよぎった。でも、乗り越えた。
- ◆「生前整理」が流行っている。50年、60年かけて積み上げてき

た自分の人生を整理して、また次のステップを生きていく。でも自力で「生前整理」ができるのは、すごく強い人だけ。だから、もう少し手軽にできる方法があるんじゃないかな、と私は思う。

- ◆近年は、「近代的個人」が重視され、「自己実現」こそが一生の意味だ、と考える風潮がある。でも私は「本当の一生とは、小さなことの積み重ね」なんだと思う。
- ◆思春期の頃の私と、現在の私とでは、同じ自分だけど全然違う。きつと話も合わない。誰でも、節目や危機を乗り越えて変わっていく。それまでの自分の一部を捨てて、小さな「片付け」をして、新しい自分を生き始める。例えば、自分のことだけに何もかも費やしてきた自分を捨てて、わが子を見守る自分になる、というように。
- ◆「結婚とは、1回死ぬこと」。花嫁の白い衣装は、死に装束。結婚とは、他人だった人と家族になって暮らすということ。そのためには、それまでの自分のままではダメで、だから1回死んで生まれ変わるんだ、という意味があったらしい。
- ◆今、日本では、自分探し、自己実現・・・と頑張って、苦しくなっちゃう人が多い。でもみんな、これまで節目を越えて、生きてこられた。今日、私の話を聞いて、少し気持ちが楽になって、これからも一つずつ越えていけばいいんだって思ってもらえたらうれしい。
- ◆「片付けブーム」が続いている。モノがあふれて、すっきりしない、片付けたい。そういう人が大勢いるが、片付けは難しい。なぜなら、モノは、その人の価値観を表しているから。ビールグラス1つ、トイレトーパー1束だって、「選ばなければ」買えない。何かが気に入ったから選んだ。だからそれを「片付ける」のは難しい。
- ◆キッチンが、大変なことになっている。戦後3世代の間に、ものすごい勢いで暮らしの形が変わった。家電がどんどん入ってきて、知恵を無くした。少し昔、当たり前だった知恵を、私たちは受け継いでいない。誰が悪いのでもなく、そういう時代だった。どういうモノを使って、どんな暮らしを営んでいくか、混乱している。

- ◆モノから、暮らしを整えていくことができる。モノは、自分の価値観を表している。モノを通して、人は自分と向き合っている。
- ◆モノがぐるぐる家の中で回っている状態が、暮らし。そして、モノは外から入ってきて、外へ出ていく。モノを通じて、外とつながっている。暮らすことは、大きな循環への参加でもある。
- ◆買った、使ったはうれしい。本能でできる。片付けは本能じゃできない。そこで、「捨てる」行為を、暮らしの環をまわすエンジンにする。まず、捨てるモノを捨てる。そして残りを、使うモノと使わないモノにわけると。使うかどうかわからないモノは「使わないモノ」。ここにしっかり向き合くと、自分の価値観がはっきりする。
- ◆目に見えない素晴らしいものはたくさんあるけれど、抽象的でとらえにくい。一方で、モノやコトは具体的。目に見えるし、触れて、実践できる。具体的なモノやコトの一つひとつの積み重ねが、抽象的で大切なことを現実世界に表現しているんだ、と私は思う。
- ◆以前、仕事でうつになり、会社を辞めた。一人暮らしをしていたが、実家には戻らなかった。そんな状態でも、お腹は空く。料理をして食べると、ちゃんとおいしく感じる。洗い物もたまるので、仕方なく洗濯する。水を触って、冷たいって思う。布団を干して、ごろんと横になると、なんとも気持ちいい。買い物だっていくしかない。レジの人とお金のやり取りをする。そんな風に数ヶ月過ごした後、「私、そろそろ働かなきゃ」と自然に思えた。この経験で、強く思った。『暮らすこと、家事こそが、生きる基本なんだ』、と。
- ◆子どものお手伝いの感想で「お母さんが笑うのがうれしい」という声があった。これは「人の役に立てるよろこび」。家事には他にも、「体を動かすよろこび」や「自分のことを自分でできるよろこび」がある。これらは、人間存在の根本にあると思う。
- ◆家事とは、生きること、人とつながること、親から子へ伝えていく文化。「子どもを一人前に育て上げて、家から追い出す」のが、子育てのゴール。だから子どもには、お手伝いをさせよう♪

直管形 LED ランプ搭載照明器具 共同購入キャンペーン

実施報告

前号で「準備中！」としてお知らせしましたキャンペーンの結果を報告します。

仲介した直管形 LED ランプ搭載照明器具は、なんと 165 台でした。台数が多い方が価格が下がるため、関係者で 300 台（メーカー希望小売価格の 50% の価格設定）を目標！ということでスタートしましたので、目標には手が届きませんでした・・・

しかし、中日新聞経済面（県下全域の紙面）、矢作新報、中部経済新聞に掲載され、右表の通り問合せをいただきました。電力消費量の見直しや LED の知名度向上に一役買ったのではないかと、と思っています。

●問合せ・注文数一覧

- ・機器の売り込み・問合せ 10 件
- ・共同購入への問合せ 5 件
- ・注文数 165 台

また、このキャンペーンの実施母体が行っている「さんしゅう ECO 倶楽部 小規模事業所省エネ活動促進事業」の取り組みが、CO₂削減活動の甲子園（ちょっとオーバー!?!）といわれる「低炭素杯 2013」の地域活動部門のファイナリストに選出されました。地域の小規模事業所がグループになって取り組んでいる好事例は少なく、もしかしたら入賞も期待できるかもしれません。

「低炭素杯 2013」でのプレゼンテーションは 2 月 16 日（土）、東京ビッグサイトで行われます！（坂本竜児）

参考 URL：「低炭素杯 2013」

<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2013/index.html>

「人の間に入り、人に交じり」学ぶ

会員突撃インタビュー（第8回）



取材を受けた方が、次の方を紹介する、リレー形式の会員インタビュー。今回のゲストは、谷口陽子さん。eco-Tのオープン前から参画し、現在も活躍中の、と〜っても広い人脈の持ち主です。

Q. はじめに、谷口さんの趣味はなんですか？

A. 「趣味」と言えるかわかりませんが、庭の草取りや、本を読むこと。読むのは、ノンフィクション物やエッセイです。それと、何かと「入り込む質（たち）」です。今夏は、ゴーヤの佃煮を10kg位つくってみんなに配りました。「おいしかったよ」と言われると、調子に乗ります。良くも悪くも「お人好し」のところがあります。

eco-TのP&Pワーキンググループで、俳句もぼちぼちやっています。俳句は、第1回豊田市エコライフ海外視察の際、マロニエの花の美しさを報告書に入れたくて、先生に見てもらったのがきっかけです。かわいがっていた猫も、ときどき句材になっていました。

Q. 最近、心に響いたことや感動したことを教えてください。

A. 孫が成長する姿を見るのが、やっぱりうれしいです。それから、「くらしの環境学習推進事業 意見交換会」の時に、自分が担当した小学校の先生がおっしゃった、「子どもたちが、ごみに関心をもってくれた」という言葉に、やりがいを感じました。

また、今年、卒寿の母を連れて旅行に行きました。「戦後、満州からの引き揚げの際に着いた佐世保港へ、もう一度行きたい」との母の希望で、長崎へ旅行しました。そのときの句です。

「初飛行 卒寿の母に 夏来たる」

「天をさし 怒りをおさえて 原爆忌」(長崎平和祈念像)

この旅行中、50年前に読んだ『この子を残して』の著者、永井隆博士の話をしたら、彼が3年あまりの日々を過ごした「如己堂(にょこどう)」の前を、タクシーの運転手さんが通ってくれました。思わず、本を夢中で読んだ当時の自分にタイムスリップしました。

Q. 谷口さんが、ほっと一息つける場所は？

A. 自宅の二間続きの和室です。低い机と椅子が置いてあり、その椅子に座ると、ほっとします。そこで俳句を考えたり、ぼお〜っとしているときが一番落ち着きます。主人と自宅を東西に分けて、それぞれに、くつろぎの空間をつくっています。

「軸を変へ 私の居場所 春の宵」

Q. eco-T やエコ人に、ひとことお願いします。

A. インタープリターをしてきた松浦さんが eco-T の事務局長になったことで、「豊田市民が運営する」という一つの目標が達成できたと感じています。eco-T 事務局には、インタープリターのやりがいを活かすよう、これからも上手に手綱を引いて欲しいです。

インタープリターのスキルアップも必要です。見学対応だけではなく、その場に応じた対応ができると良いと思います。その一方で、「活動を楽しむ」気持ちを忘れずに。

eco-T もオープンして5年。もっと多くの市民の方に施設を知って欲しいですね。自治区に出向いたりして、来館を促すのもいいと思います。自分たちのごみの行方を知ってもらい、エコを考えるためにも・・・ (会員突撃チーム：野武審・岩月桂子・水野雄介)

お話好きな谷口さん。旅先では常に一句考えているそうです。インタビュー中にも、その折々に作られた素敵な句を、次々と聞かせていただきました。また、日常生活の中で、洗濯に重曹を使う、食器洗いに廃油石鹸を使うなど、環境に良いと言われる行動を、ごく普通に実践されていらっしゃることに感心してしまいました。

地元のジビエを食べて、農山村を守ろう

とよたのまちネタ紹介 第8回

12月8日（土）、9日（日）の2日間、どんぐりの里いなぶで、「ジビエ・グルメ・グランプリ 2012」が開催されました。昨年に続いて、2回目の開催です。小雪が舞い散り、寒風吹きすさぶ中、屋外テントでの開催。それでも会場は、ますますの人出でにぎわっていました。



「ジビエ」はフランス語で、「食材として捕獲された野生の鳥獣」のこと。今回のコンテストには、14 店舗（団体）が出店。県内で捕獲されたイノシシかシカの肉を使った料理を出すことが条件で、和食・洋食・中華などジャンルはなんでも OK。専門審査員によるグランプリの選出の他、一般投票による特別賞も用意されていました。



近年、愛知県でもイノシシやシカによる農林業への被害が拡大しており、駆除を目的に捕獲される頭数も増えています。これを食材として活用し、農山村の活性化に結び付けようというのが「愛知県ジビエ消費拡大事業」です。今回のグランプリも、その一環として開催されており、実はグランプリ以外に、「ジビエ・グルメ・スタンプラリー」も、2月11日（月）まで県内22店舗で開催されています。

詳しくは <http://www.pref.aichi.jp/0000054183.html>

ジビエは計画的な捕獲が難しいこと、衛生的に食肉処理ができる施設まで運ぶ手間がかかること、固くて食べづらいスジ肉部分が多いこと等の理由で、どうしても畜産の肉に比べて割高になりがちです。しかし、おいしく食べられて、農山村の保全にも効果があるとなれば、なんとか上手な利用方法を見出していきたいものですね。(というか、市販されている畜産の肉は、輸入飼料の安さのせい？で、私にはとっても安価に感じるのですが、みなさんはいかがですか・・・?)



私は、「フルーツの甘味を効かした猪肉唐揚げ」、「奥三河の味まんさい汁」、「焼きおにぎりのスープ茶漬け」、「天鹿無双 忠勝コロッケ」の4品をいただき、おなかいっぱい。気さくな出店者の方々とお話するのも楽しみの一つです。どれもおいしかったのですが、さすがはジビエというか、味に少し癖のあるものも、やっぱりあります。そういう「食材の癖」そのものを楽しめるようになれば、ジビエ食の達人かな？と思ったりしました。(小泉達也)



環境基本計画「後期重点プロジェクト」に 意見提案しましたか？

平成 20 年から 29 年までの 10 年間を計画期間とする「豊田市環境基本計画」の後期重点プロジェクト（平成 25～29 年）の意見募集（パブリックコメント）が、12 月半ばから 1 ヶ月間行われました。広報とよたで、ご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。

基本計画って？ 意見募集って？

そもそも「自分のような普通の市民が、行政や専門家が作った計画に言えることは何もない」と思い込んでいる人も多いと思います。

エコ人プロジェクトとして、「市民一人ひとりが環境に関心を持ち、行動する市民を増やしたい」。そんな思いで、12 月～1 月にかけて勉強会を 4 回開催しました。のべ 64 人が参加、421 件の意見をいただき、以下の 15 項目に集約して市に提出しました。

アンケートでは、「知らない人と話ができて勉強になった、市民が意見するものじゃないと思っていた、NPO を育てるのが大切」といった意見をいただきました。提出した報告書全文はエコ人のホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

（坂本竜児）



[環境政策全般]

1. 共働：計画策定段階から意見の聴取し、対話と創造の機会を経て計画を策定する。また、実施段階においては市民が主体となって活動する機会をつくり市民力（企業力も同様）を積極的に活用する。
2. 評価：市も市民も事業者も納得のいく評価をする。現在の評価は、環境活動に理解・協力をしている市民にとっては残念な評価である。
3. 環境学習の推進：環境分野の学習施設が個別の分野のプログラムを確立するとともに、ESD の視点を持って、連携した豊田市独自の学習プログラムを制作し、小学校に限定せず様々なターゲットを設定し地道な啓発をはかる。

4. 行動促進：とよたエコポイント制度は、市民の行動促進に有意義である。政策との連携を強く図りインセンティブを持たせる。例えば、雑誌の分別・持ち込みに新たなポイントを付与して分別を高めるなど。あわせて、エコファミリーへの周知（広報活動）に力を入れる。

5. 周知活動：広報とよた、新聞といった従来の広報手段に加え、HP や SNS 等を活用して関心ある市民に直接働きかけたり、環境活動の担い手を育成して、担い手から伝えてもらう広報（クチコミ）をしたりする。

[低炭素社会]

6. 削減目標の設定：市民のライフスタイルは多様である。その多様なライフスタイルにあわせたエネルギーの有効利用や CO₂ 削減目標を設定する。多様なライフスタイルのモデルは、最新の設備と森林や河川など豊田市の地域資源の有効利用という観点から複数設定をする。

7. 車から排出される CO₂ の削減目標：EV・PHV を評価指標にすると発電方式によって CO₂ 排出量が大きく左右される。そこで、再生エネルギーを使った充電スタンドも評価軸に加える。また、ガソリン消費量の増減を指標に設定するなら、①軽自動車の所有率の変化（車の小型化）、②自家用車から乗り換え交通量（自転車、バイク、徒歩）、③公共交通（電車、バス）の利用者数変化も追加することで、間接的な CO₂ 削減の評価となる。

8. 森林の活用：間伐の推進のみではなく木材の利用促進をはかる。マーケティングから得られた知見により、例えば、幼いころから木に慣れ親しむ体験（木育）を積み重ねていくとともに、薪やペレット等を利用した暖房やお風呂の湯沸かし、キャンプ等での調理体験、家具づくりや建築材としての活用といった豊田の木材を地域で利用（消費）という、生産から販売までのしくみづくりを行う。

化石燃料から木材（木質バイオマス）に燃料が置き換えれば CO₂ 削減効果は高い。

[自然共生社会]

9. 生き物調査：こども園、小学校（学齢別）、中学校、高校・大学、一般（ファミリー等）といったターゲットを設定し対象の応じた調査項目を設定し調査市民の拡大を目指す。また、講師やサポーターの派遣といった支援策を講じ、参加しやすい環境をつくる。目標参加人数は豊田市人口の1%（4,000人）をめざす。

10. 自然体験活動の普及：子どものころから自然に慣れ親しみ、健康な心と体を育むための自然体験活動を普及する。子どもたちの行動範囲に応じたフィールドを設定し、指導者と参加者の特性を踏まえて着手しやすいフィールドから優先して行う。リーダー育成を行うとともに、保護者やフィールドの地権者に理解が得られる啓発を行う。

11. 里山の保全・回復・活用：ラムサール登録湿地を核にした里地・里山の保全・回復・活用と普通地域の保全・回復・活用と同時に展開する。現在、都市近郊の里山の保全はほとんど手つかず。21世紀的な豊田市独自の活用方法を見出し、新たな価値による保全策を検討できるところから実施する。

12. 外来種問題：外来種だけをとりだすのではなく、クマやイノシシ、シカ、サルといった在来種の被害なども含めて「生態系のバランスの崩壊」という観点での啓発（環境教育）を行う。また、対策として安易に駆除するのではなく、人権教育や命の尊さの教育もあわせて行う。

[循環型社会]

13. 現状の適正評価：豊田市民はごみの分別に理解があり適正に分別されている。ごく一部の市民がマナーを守れなかったり、雑誌、生ごみなどリサイクル可能な資源が混入されているが、まずは全国的な状況と比較し、現状でひとまず満足する評価が必要。

14. 2Rの推進：3R（リデュース、リユース、リサイクル）のうちの2R（リデュース、リサイクル）に絞って、発生抑制を中心にゴミ問題への取り組みを展開する。リデュース面は、レジ袋削減や食品トレーなど容器包装の削減、生ごみをなるべく出さないクッキングや水分の削減（生ごみひと絞り運動）の実施など。また、象徴的な取り組みとしてイベント時の使い捨て容器の削減にも取り組む。

リユース面では、リユース工房を核としたリユース活動の支援。フリーマーケットの開催支援（広報支援）などを行う。

15. 生ごみリサイクルの促進：地域や住まいによって生ごみ処理方法の選択肢が変わるため、地域特性を踏まえたリサイクルを行う。一次処理を家庭でする方式（三重県桑名市：くるくる工房）、直接持ち込みを行い地域通貨と交換・有機野菜と引き換えができる方式（埼玉県小川町：NPO ふうと）など、さまざまな取り組みを紹介する勉強会を市民と行政で行い、市民が主体となる取り組みをサポートする。

「ちょっと気になること」 ～消えた？ エコ年賀状～

最近の年賀状には、さまざまな種類がありますね。ところで今年、これまで5年間続いていた「カーボンオフセット年賀葉書」が販売されなかったことに気づいた方はいらっしゃいますか？

日本郵便のHPによると、カーボンオフセット葉書は、郵政民営化された時に CSR 事業の一環として企画され、地球温暖化防止のための京都議定書第一約束期間（2008～2012）を発行期間と定めて実行されました。そのため、平成 24 年用年賀葉書をもって販売を終了。ちなみに当該期間の夏季には、カーボンオフセットかもめ～る葉書も販売されました。かもめ～る分を合わせると、販売枚数は5年間で約7,000万枚。ただし、後半2年間は販売枚数が減っていたようです。

そもそも「カーボンオフセット」とは、排出してしまった CO₂ などの温室効果ガスを相殺するために、自然エネルギー事業や省エネ事業等（お金の拠出等によって）支援するものです。

通常 50 円の年賀葉書ですが、カーボンオフセット年賀葉書は 1 枚 55 円。この差額の 5 円分（総額約 3.5 億円）に加えて、郵政事業からほぼ同額が寄付され、その全額が日本の排出量削減目標である CO₂ マイナス 6% 達成に向けて、国内外でのプロジェクトから得られる排出権の取得（購入）に充てられる、というしくみです。

年賀状という気軽な媒体で、エコへの思いを表現できるものとして、私は、この取組みを評価していただけに、終了してしまったことを残念に思います（ただし、寄付金の使い方には疑問がありました）。

近年は、メールで新年の挨拶をされる方々も増えており、「紙を使わない方がエコ」というのも事実です。でも、私は葉書派。せめて年に一度くらいは、“自筆”で連絡を取り合いたいな～と思う私は、“アナログ派”なのかなあ。
（小泉達也）

●主な活動記録一覧（9/1～1/31）

9月

- 3日 インタープリター&スタッフ研修
（株式会社中西、名古屋市鳴海工場等 視察）
- 5日 地域再生実践塾 開催協力（～7日、講演&eco-T 視察）
- 7日 eco-T 運営会議
- 13日 市職員研修「住民とのパートナーシップ講座」 講師派遣
- 16日 未来へのエコトーク第1回
「“食”でできる省エネ」
- 26日 市環境審議会 委員参加
- 27日 第40回（2012年度4回）理事会
- 29日 産業フェスタ 出展（30日は荒天により中止）

10月

- 2日 出張展示「お買いものから3R♪」（市自然観察の森、～14日）
- 3日 eco-T 来館者累計10万人達成（寿恵野小学校）
- 5日 eco-T 運営会議
- 9日 愛知県環境学習施設等連絡協議会（愛知県東大手庁舎）
- 11日 eco-T「緑のトンネル」片付け
- 15日 「市民活動の未来を拓くセミナー」（京エコセン） 参加
- 20日 トヨタEX会ごみ拾いウォーク支援（Make a change day 関連）
- 20日 直管形LEDランプ搭載照明器具共同購入キャンペーン（～12/15）
→ P.5 参照
- 21日 未来へのエコトーク第2回
「今、世界で起きていること」
- 23日 低炭素モデル地区第2期整備計画選考会 委員参加
- 25日 第41回（2012年度5回）理事会
- 29日 市環境審議会 委員参加
- 31日 市環境学習施設連携会議（旭高原元気村）

11月

- 2日 eco-T 運営会議
- 4日 リユース工房 オープン

- 10日 第32回市社会福祉大会感謝状受賞 (eco-T 市民ボランティア)
- 10日 eco-T バスツアー ～食器のリサイクルを見に行こう～
- 11日 未来へのエコトーク第3回
「おいしい野菜を食卓へ」
- 21日 展示解説ボランティア育成講座開講 (～1月30日)

12月

- 2日 エコットフォーラム2012 辰巳渚さん講演会
家事が変われば生き方が変わる ～家事塾から学ぶ～ → P.2 参照
- 6日 インタープリターおもてなしSTEP UP 研修
- 7日 eco-T 運営会議
- 8日 「みちなびとよた」へ出張 eco-T (第1回)
- 11日 第42回 (2012年度6回) 理事会
- 12日 東邦ガス意見交換会&見学会 参加
- 17日 インタープリター&スタッフ研修
(京エコロジーセンター 視察)
- 22日 市環境基本計画後期重点プロジェクト勉強会 (全体会) → P.10 参照
- 27日 eco-T 大掃除&仕事納め
- 29日 エコ人仕事納め

1月

- 3日 24年度第1回とよた市民活動センター運営協議会 委員参加
- 4日 エコ人仕事始め
- 5日 eco-T 仕事始め
- 8日 市環境基本計画後期重点プロジェクトテーマ勉強会 (～10日) → P.10 参照
- 11日 eco-T 運営会議
- 18日 第43回 (2012年度7回) 理事会
- 20日 とよたエコ人プロジェクト新年会 (和乃風)
- 30日 展示解説ボランティア育成講座 修了式
- 30日 市環境審議会 委員参加



新規会員募集中!

現在の会員数は、65名・2団体です

一緒に、楽しい&エコなくらし・活動を始めてみませんか。入会は随時、受付中です。

★新規入会のみなさま(賛助会員)
佐々木多賀子さん、成瀬敏さん、
鈴木啓佑さん、田原愛子さん、吉橋久美子さん、吉田大さん

正会員	10,000円(議決権あり)
賛助会員	一般 1,000円/口
	学生 500円/口
	営利団体 10,000円/口
	非営利団体 3,000円/口

●おすすめイベントの紹介&参加者募集(2月)

日時	内容など
2月9日(土) 13:00~14:30	環境モデル都市講演会「豊田市の環境を考える風土サイエンス」 ●場所: JA あいち豊田 本店ふれあいホール2階(豊田市西町4-5) ●講師: 長沼毅 氏(『科学界』のインディージョーンズ) ●内容: ラムサール条約湿地になった豊田市の「矢並湿地」と「猿投山」を通して、地球温暖化の原因となるCO ₂ について楽しくお話しします。 ●定員: 先着300名 ●申込み: 事務局(JTB 中部豊田支店) jimukyukutoyota@cub.jtb.jp TEL: 0565-34-3514 (平日9:30~17:30) FAX: 0565-34-2610
2月16日(土) 14:00~16:30	活動を元気にするチャリティーコンサート「春よこい!」 ●場所: 産業文化センター ★詳細はチラシをご覧ください <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">会員向けチケットプレゼントあり! (詳細は送付状をご覧ください)</div>
2月17日(日) 10:00~14:30	いなかとまちの文化祭 ~こころを耕すくらしのマルシェ~ ●場所: T-FACE 前シティプラザ ●申込み: いなかとまちの文化祭実行委員会事務局(とよたエコ人プロジェクト内) ★詳細はチラシをご覧ください
2月17日(日) 13:30~16:30	eco-T 市民会議 ●場所: 豊田市環境学習施設 eco-T ●内容: eco-T にかかわるみんなで、これまでの活動をふりかえり、これからについて語り合います。

編集後記 この冬は寒さが厳しいですね。そのせいもあって(?)忘れられがちですが、この年度末で京都議定書第一約束期間が終了します。これから行われる「マイナス6%」の達成状況の報告や今後の戦略づくりを見守りつつ、くらしの中でできることをコツコツ広げていきましょう。(小泉た)

発行・編集 ^{びと} NPO 法人 とよたエコ人プロジェクト

TEL 0565-50-5684

FAX 0565-50-5568

メール info@t-ecobito.jp

URL <http://t-ecobito.jimdo.com/> ←活動ブログも、理事ブログも!

〒471-0025 愛知県豊田市西町 1-88 カニックビル5階

私たちは豊田市から委託を受けて、環境学習施設 eco-T (エコット) を運営しています